水稲の生育状況と今後の管理対策（第８号）

令和２年７月３１日
新潟県農林水産部

〔７月 30 日現在の生育状況〕

コシヒカリ

◎　指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数と葉数の進みは「並」の状況です。葉色は県全体では「並」の状況ですが、「やや濃い」、「濃い」地域が認められます。

新　之　助

◎　指標値に比べ、草丈と茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」状況ですが、茎数と葉色は地域差が大きい状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

◎　７月 30 日発表の１か月予報（８月１日から８月 31 日まで）によると、平年と同様に晴れの日が多く、２週目の８月８日以降の気温は、高い確率が 50%と予想されています。向こう１か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込みとなっています。

◎　葉いもちの多発生事例が確認されています。８月はじめは平年並の気温が予想されており、穂いもちへの移行を防ぐ必要があります。

◎　コシヒカリでは、出穂期（県平均で８月５日）以降、高温が見込まれるため、葉色診断をただちに行い、追加穂肥の要否を検討する必要があります。

◎　登熟初期（出穂後 10 日間）の高温により、胴割粒の発生が多くなることから、引き続き、飽水管理[*1] を徹底するとともに、フェーン現象等による異常高温時には、地域の用水の供給状況に応じた水管理を適切に行う必要があります。

〔管理対策のポイント〕　★は重要ポイント

早 生 品 種

★　穂いもち防除は、散布適期を逸しないよう晴れ間を見て確実に実施しましょう。

★　出穂期 25 日後まで飽水管理を継続し、根の活力を維持して土壌からの窒素供給を図り、登熟後期までの栄養を確保しましょう。

・　梅雨明け後の高温により登熟の進みが早まる可能性があります。刈り遅れによる品質低下を防ぐため、収穫適期を見逃さないよう注意しましょう。

コシヒカリ

★　出穂期以降は高温が見込まれています。２回目の穂肥以降の葉色の推移に注意し、葉色の低下が大きい場合には、地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考に、出穂期の３日前までに追加の穂肥を施用しましょう。

・　有機質 100%肥料を穂肥に利用する場合は、肥料の特性を確認した上で、化学肥料よりも早めに施用しましょう。

★　出穂期前後は最も水を必要とする時期です。用水の供給状況を確認して、出穂時に湛水状態が維持できるよう努めましょう。また、出穂期 25 日後まで飽水管理を継続し、根の活力維持を図りましょう。

★　葉色が濃く、上位葉に葉いもちの発病が見られる場合には、薬剤防除により、穂いもちへの移行を防いでください。

★　斑点米カメムシ類の被害を抑えるため、計画的な除草と適期防除を徹底しましょう。

新　之　助

★　葉いもちの発生が各地で確認され、多発生の報告もあります。新之助はいもち病抵抗性が弱いので、病斑を確認した場合はただちに薬剤防除を行いましょう。

★　県平均の出穂期は、平年より１日遅い８月 11 日の見込みです。葉色が指標値に比べ濃い場合は、２回目の穂肥施用時（出穂期 12～10 日前）の葉色を確認し、葉色に応じて施肥量を調節して、適正な出穂期の葉色（SPAD 値 34～36）に誘導しましょう。

・　全量基肥施肥*2 において、高温により後期栄養不足が懸念される場合には、栄養状態を維持するため、追肥を検討してください。

・　飽水管理を継続し、根の活力維持を図りましょう。

*1 飽水管理：土壌を湿潤状態に保つこと
*2 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前又は田植え時に一括して施す施肥法

フェーン対策

★　県からのフェーン緊急情報や週間天気予報、台風情報等に注意し、強風やフェーン現象等による高温・乾燥が予想される場合には、品質低下（白穂、白未熟粒、胴割れ）を軽減するため、早めの湛水に努めましょう。

熱中症予防

★　梅雨明け後の８月は厳しい暑さが見込まれます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意しましょう。

◎　今後の管理対策発信予定日　　８月 21 日、９月 11 日

〔補足資料〕

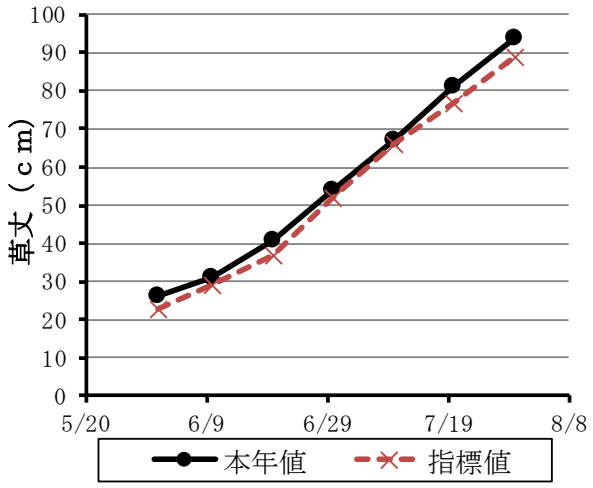
1　農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（７月 30 日現在）

コシヒカリ

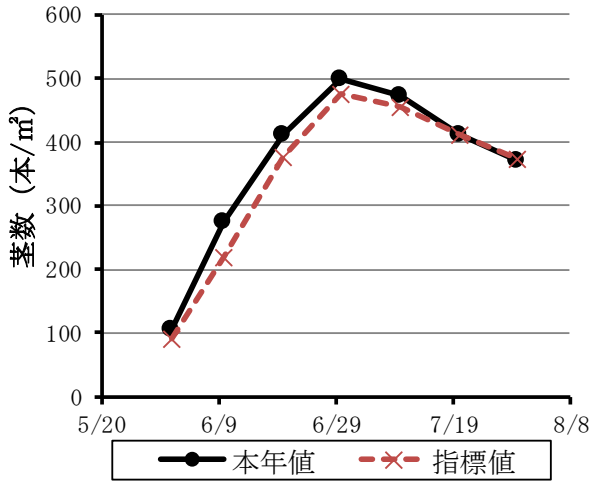
○　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数と葉数の進みは「並」の状況です。葉色は県平均では「並」ですが、「やや濃い」、「濃い」地域が認められます。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
草丈	94 cm	89 cm	やや長い	106%
茎数	372 本/㎡	374 本/㎡	並	100%
葉数	13.3 葉	13.0 葉	並	+0.3 葉
葉色（SPAD 値）	33.9	33.0	並	+0.9

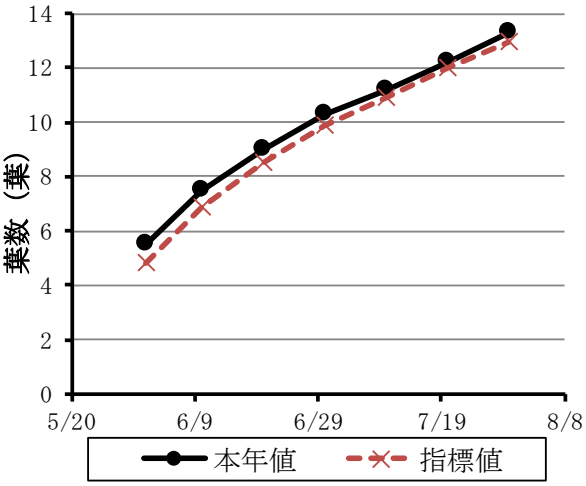
注）県内全域の 116 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 10 日、栽植密度 16.9 株/㎡）



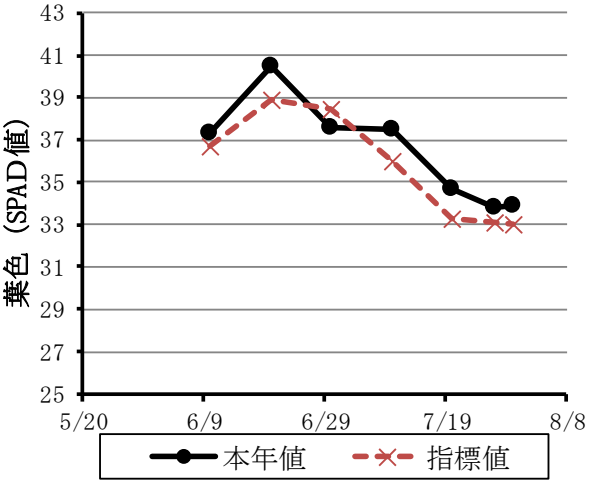
草丈の推移
（県全体）



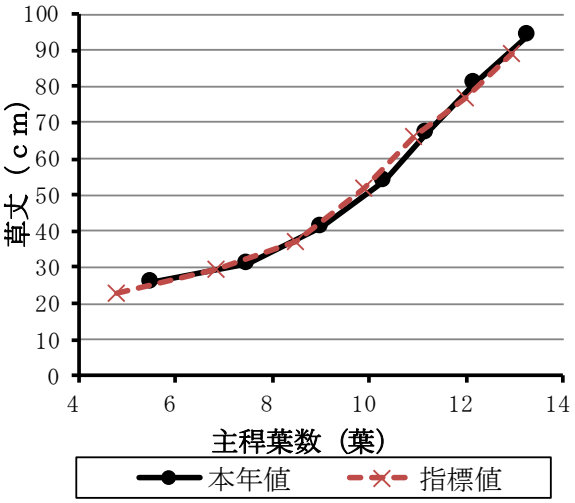
茎数の推移
（県全体）



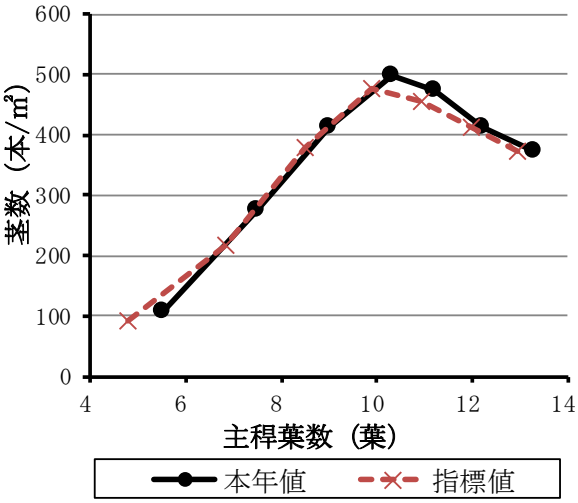
葉数の推移
（県全体）



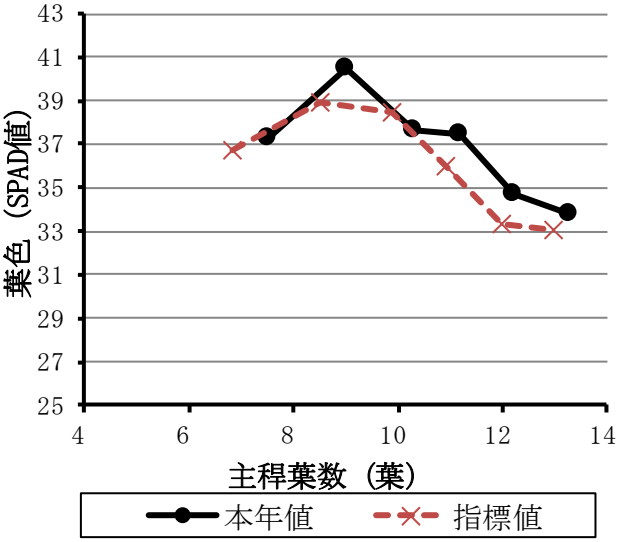
葉色の推移
（県全体）



葉数と草丈
（県全体）



葉数と茎数
（県全体）



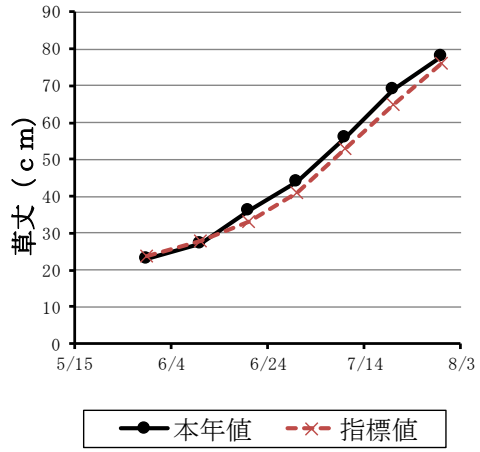
葉数と葉色
（県全体）

新之助

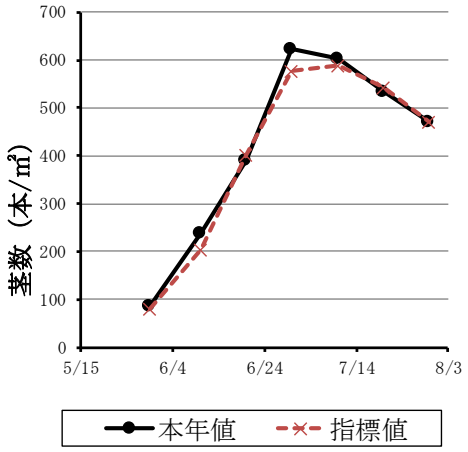
○　指標値に比べ、草丈と茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」状況ですが、茎数と葉色は地域差が大きい状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	78 cm	76 cm	並	103%
茎数	471 本/㎡	471 本/㎡	並	100%
葉数	13.8 葉	13.2 葉	やや早い	+0.6 葉
葉色 (SPAD 値)	36.2	34.4	やや濃い	+1.8

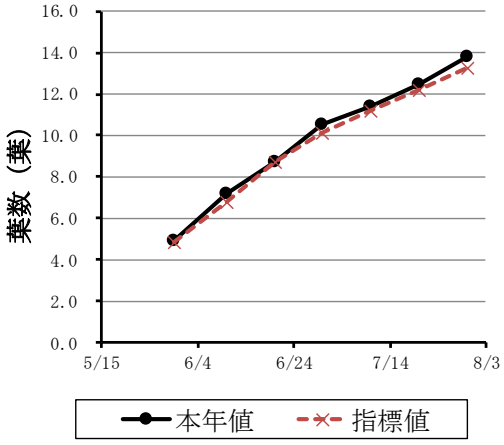
注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え 5 月 17 日、栽植密度 16.0 株/㎡）



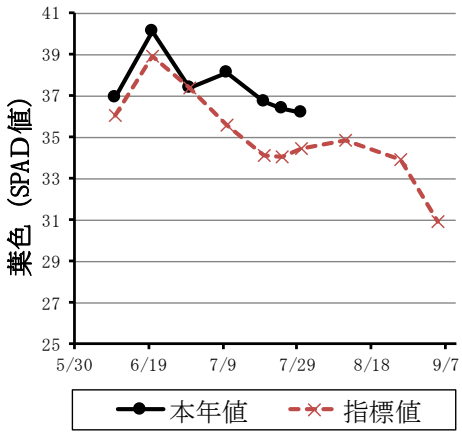
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



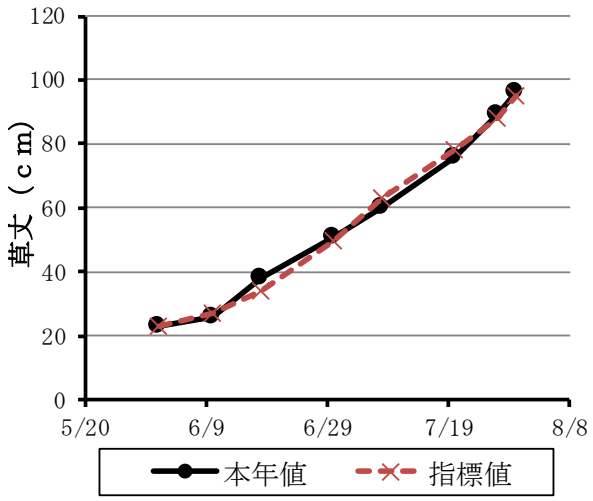
葉色の推移

こしいぶき

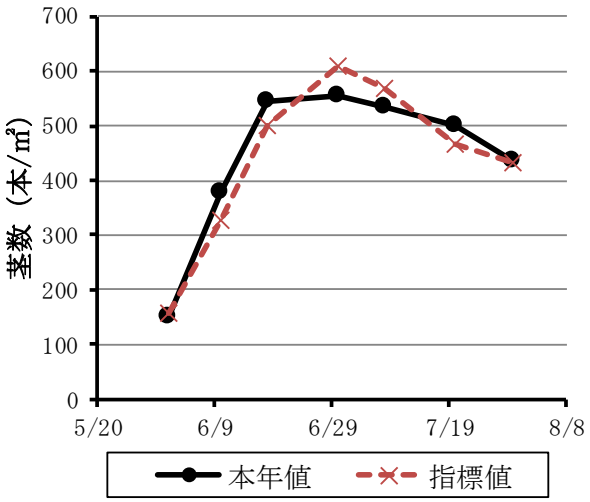
○　指標値に比べ、草丈は「並」、穂数は「並」、葉数は「やや多い」、葉色は「濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	96 cm	95 cm	並	101%
穂数	435 本/㎡	433 本/㎡	並	100%
葉数	13.2 葉	12.7 葉	やや多い	+0.5 葉
葉色（SPAD 値）	37.7	35.2	濃い	+2.5

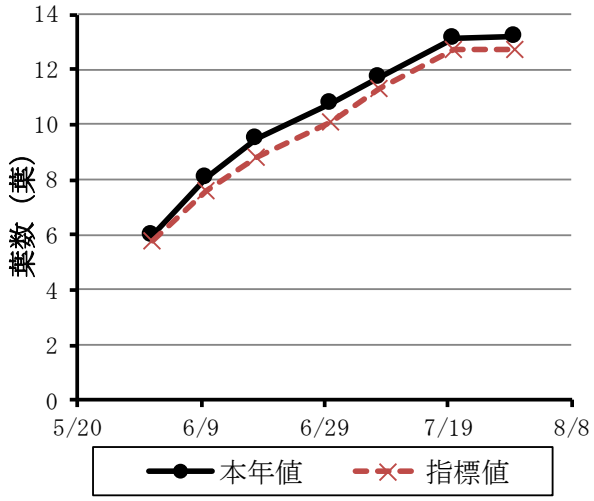
注１）化学肥料栽培　田植え５月 11 日、栽植密度は 19.8 株/㎡、出穂期７月 28 日（平年差±0）
注２）基肥窒素成分量　3.0kg/10a、穂肥窒素成分量　1.0＋1.0kg/10a（1 回目：7/6、2 回目：7/14）
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



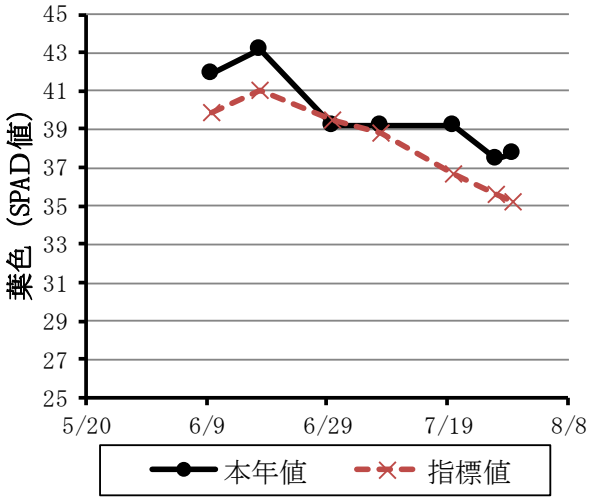
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

ゆきん子舞

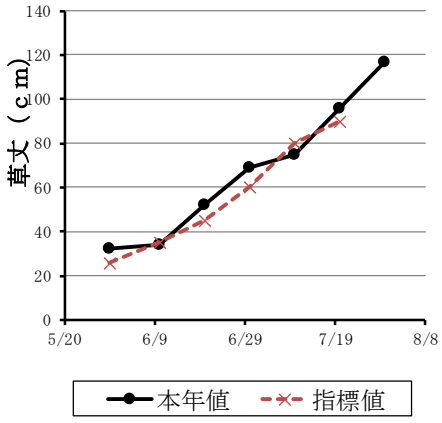
○　指標値に比べ、穂数は「並」、葉数は「やや多い」、葉色は「濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	117 ㎝（草丈）	85 ㎝（稈長）	―	106%（前年比）
穂数	457 本/㎡	470 本/㎡	並	97%
葉数	13.1 葉	12.5 葉	やや多い	+0.6 葉
葉色（SPAD 値）	38.3	36.0	濃い	+2.3

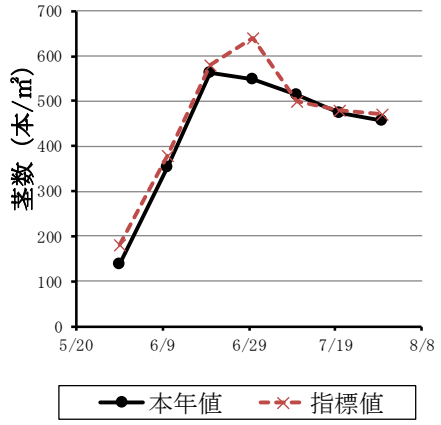
注１）化学肥料栽培　田植え５月１日、栽植密度は 18.6 株/㎡、出穂期７月 24 日。

注２）基肥窒素成分量　2.8kg/10a(前作枝豆）、穂肥窒素成分量 2.3＋2.3kg/10a(1 回目：6/29、2 回目：7/6)

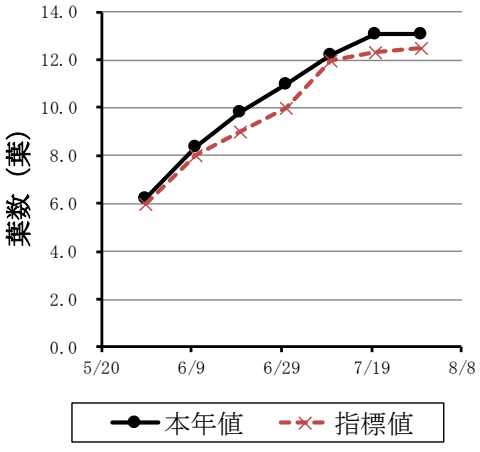
注３）長岡市高野町の生育調査ほデータ



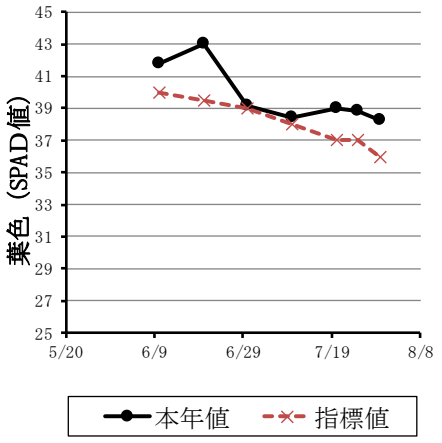
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



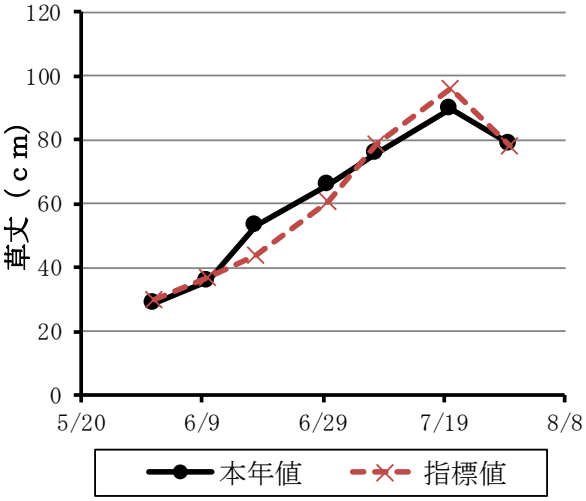
葉色の推移

つきあかり

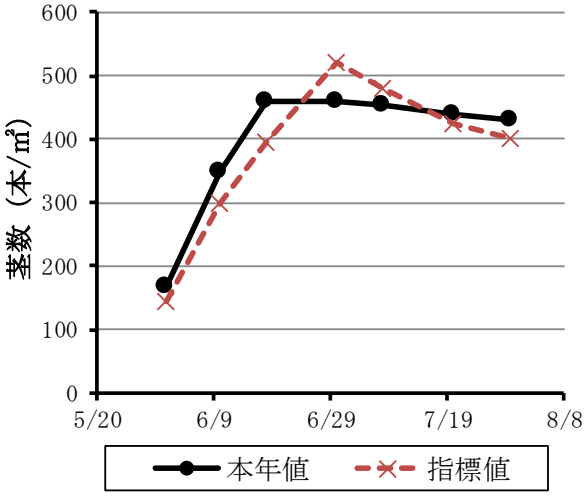
○　指標値に比べ、稈長は「並」、穂数は「やや多い」、葉数は「やや少ない」、葉色は「やや濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
稈長	79 cm	78 cm	並	101%
穂数	431 本/㎡	400 本/㎡	やや多い	108%
葉数	12.1 葉	12.5 葉	やや少ない	-0.4 葉
葉色（SPAD 値）	42.8	41.0	やや濃い	+1.8

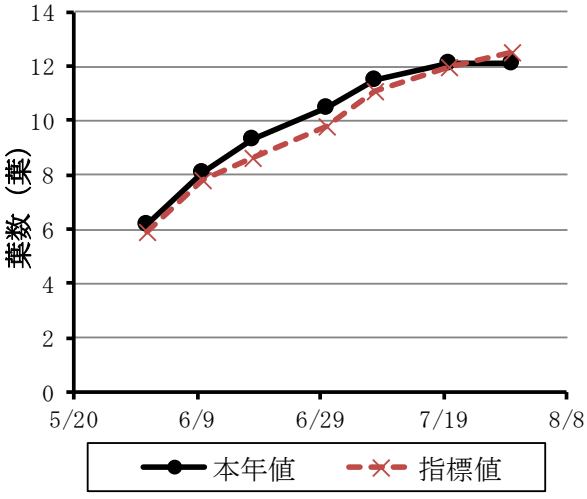
注１）化学肥料栽培　田植え５月７日、栽植密度は 21.2 株/㎡、出穂期７月 23 日（前年差+4 日）
注２）基肥窒素成分量　7.0kg/10a、穂肥窒素成分量　3.0＋3.0kg/10a(1 回目：6/29、2 回目：7/7)
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



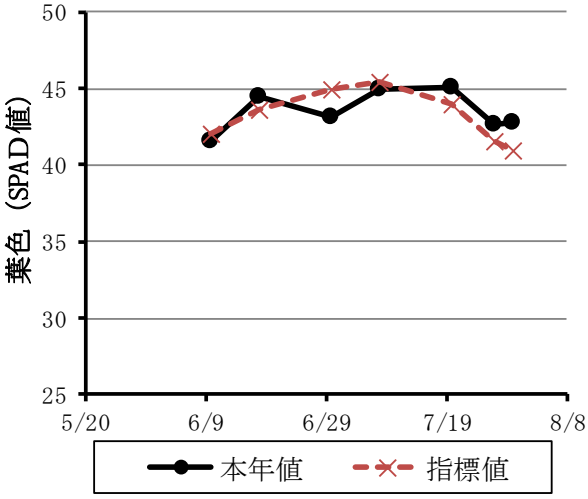
草丈の推移



茎数の推移



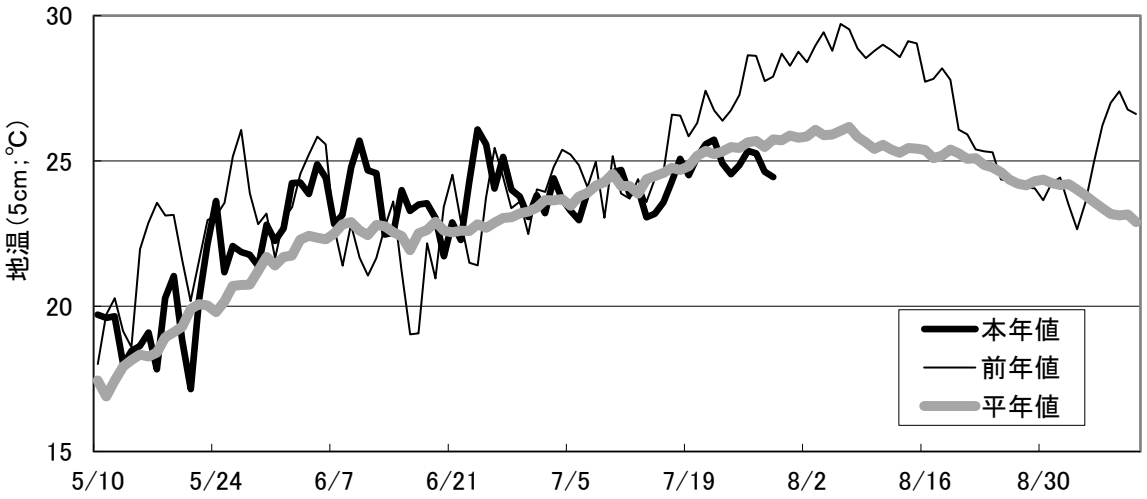
葉数の推移



葉色の推移

2　地力窒素の発現状況

○　7/20～7/29 の期間の日平均地温は平年差-0.5℃で、この期間の地力窒素の発現量は、平年より少ない状況です。



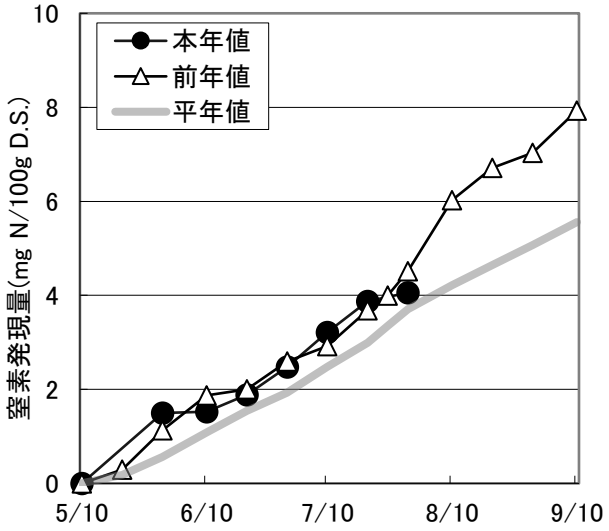
地温（５㎝）の推移

地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査）　　(mgN/100g)

	7月 19 日①	7月 29 日②	地力窒素発現量※1 (③＝②－①)
本年値	5.9	6.1	0.2
前年値	7.3	8.1	0.8
平年値	5.3	6.0	0.7

※１　小数点２ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

※２　化学肥料でＮ成分 3.5kg/10a 施用。移植日：本年５月 11 日（平年５月 10 日）。



地力窒素の発現推移
（初期値を０とした）